

クモテナガコガネ（ドウナガテナガコガネ）属（*Euchirus*）に関する情報（案）

○原産地と分布： インドネシアのスラウェシ島、マルク諸島のセラム島、マニパ島、アンボン島等に生息するチャイロクモテナガコガネ（ドウナガテナガコガネ）*E. longimanus* とパラワン島を除くフィリピン全域に生息するセスジクモテナガコガネ（セスジドウナガテナガコガネ）*E. dupontianus* の 2 種から構成される。

○定着実績： 日本における侵入・定着実績はない。

○評価の理由

日本にまだ定着していないが、侵入して定着すれば、特定外来生物であるテナガコガネ属と同様に、幼虫の食物であると考えられている腐植質や生息場所をめぐって、在来種で絶滅のおそれのあるヤンバルテナガコガネやマルバネクワガタ類等と競合するおそれがある。

○被害の実態・被害のおそれ

生態系に係る被害

- テナガコガネ属と同様の生態を有する可能性が高いため、沖縄本島北部のみに分布するヤンバルテナガコガネや南西諸島に分布するマルバネクワガタ類の生息地に侵入した場合、定着し、幼虫の餌である腐植質や生息場所を巡ってこれらと競合するおそれがある。

○被害をもたらす要因

(1) 生物学的要因

- テナガコガネ属と同様の条件で飼育が可能であり、野外でも同様の生態を持っているものと考えられる。
- 大型で幼虫の摂食量が多く、野外に逸出した際には幼虫の生息環境中での在来種との競合が懸念される。

○特徴ならびに近縁種、類似種について

- 日本には同属の種は生息しないが、同じテナガコガネ亜科のテナガコガネ属に属するヤンバルテナガコガネが沖縄本島に生息する。テナガコガネ亜科の中では非常に大型で長い体形を有する属である。

○その他の関連情報

- 国内で流通、飼育されている例がある。

○主な参考文献

- (1) Arrow, G. (1917) The fauna of British India. Lamellicornia 2. Rutelinae, Demyonycinae, Euchirinae. Euchirinae - 1917 - xiii + 387 p - 77 figs - 5 pl (1 col.). Taylor and Francis, London.
- (2) 水沼哲郎 (1984) ヤンバルテナガコガネ. 104pp. 朝日出版社。
- (3) 水沼哲郎 (1999) コレクションシリーズーテナガコガネ・カブトムシ. 99pp. ESI。
- (4) Young, R., M.(1989) Euchirinae (Coleoptera: Scarabaeidae) of the world: Distribution and taxonomy. Coleopt. Bull., 43: 205-236.

ヒメテナガコガネ属 (*Propomacrus*) に関する情報 (案)

○原産地と分布： 中国江西省中部に生息するダヴィドヒメテナガコガネ(シナヒメテナガコガネ) *P. davidi* とユーゴスラビア南部からギリシャ、イスラエル、トルコ、シリア、イラン、キプロス等に分布するヒメテナガコガネ(トルコヒメテナガコガネ) *P. bimucronatus* の2種から構成される。

○定着実績： 日本における侵入・定着実績はない。

○評価の理由

日本にまだ定着していないが、侵入して定着すれば、特定外来生物であるテナガコガネ属と同様に、生息場所である樹洞や幼虫の餌となる腐植質をめぐって、在来種で絶滅のおそれのあるヤンバルテナガコガネ等と競合するおそれがあり、また、本土にも定着し、樹洞の腐植質を利用する昆虫と競合するおそれがある。

○被害の実態・被害のおそれ

生態系に係る被害

- テナガコガネ属と同様の生態を有しており、ヤンバルテナガコガネ等との競合が懸念される。

○被害をもたらす要因

(1) 生物学的要因

- ヒメテナガコガネはブナ科やムラサキ科の樹木の樹洞で腐植物を食べて生活しており、ヤンバルテナガコガネと同様の生態的地位を占める可能性が高い。
- ヒメテナガコガネはイランからギリシャまで幅広い緯度の中で生息しており、また1000mを超える高標高地にも生息していることから、沖縄島のみでなく本土でも定着する可能性があり、樹洞を利用する種との競合が懸念される。
- ダヴィドヒメテナガコガネは、その生息地(中国中南部、確実な情報は江西省)からも、日本で広く定着する可能性を有し、樹洞を利用する種との競合が懸念される。

○特徴ならびに近縁種、類似種について

- 日本には同属の種は生息しないが、テナガコガネ属の国内希少野生動物種であるヤンバルテナガコガネが沖縄本島に生息する。テナガコガネ亜科の中では最も小型の属である。

○その他の関連情報

- 国内で流通、飼育されている例がある。

○主な参考文献

- (1) Abai, M. & M. Zairi (1976) A new record of *Propomacrus bimuctonatus* (Pall.) from Iran. J. entmol. Soc. Iran, 3: 107-115
- (2) Arrow, G. (1917) The fauna of British India. Lamellicornia 2. Rutelinae, Demyonycinae, Euchirinae. Euchirinae - 1917 - xiii + 387 p - 77 figs - 5 pl (1 col.). Tailor and Francis, London.
- (3) Heller, K. M. (1889) Bemerkung uber die Labensweise von *Propomacrus bimucronatus* Pall. Entomol. Nachrichten., 6: 96-99.
- (4) Heyden C. H. G. von (1851) Zur Naturgeschichte des *Propomacrus (Euchirus) bimucronatus* (Pall.). Stettin. Entomol. Ztg. 12: 240-241.
- (5) 水沼哲郎 (1984) ヤンバルテナガコガネ. 104pp. 朝日出版社。
- (6) 水沼哲郎 (1999) コレクションシリーズーテナガコガネ・カブトムシ. 99pp. ESI。
- (7) Young, R. M. (1989) Euchirinae (Coleoptera: Scarabaeidae) of the world: Distribution and taxonomy. Coleopt. Bull., 43: 205-236.

(参考) ヒメテナガコガネ属、クモテナガコガネ属の分類学上の位置づけ

